

# 海上の森自然観察会

テーマ 冬芽を観察しよう

日時 2015年1月17日(土) 10:00~14:45(曇り)

参加者 一般:0名(子ども0)

指導員:7名

二十四節気の「大寒」間近で寒さが厳しく、天気も今ひとつということでしょうか、参加者は指導員7名でした。この時期は花も虫も少ないので、今回のテーマは冬芽です。「冬芽ハンドブック」を片手に、冬芽と葉が落ちた跡の葉痕を見ながら回りました。

最初に、駐車場横の草原のイヌコリヤナギの花芽が膨らんでいるということで、観察に向かいました。既に赤色の芽鱗が落ちて銀毛が見えている花芽もありました。他の柳と違い、芽は対生ということですが、よく見ると互生の部分もあります。花芽と葉芽の違いがよくわからないということで、葉が伸びる前にもう一度確認しようということになりました。その近くの枝にモズのはやにえ(カナヘビ)がありました。カナヘビの体はまだ乾燥しきっておらず、柔らかでした。

駐車場を出て、四つ沢から物見山登山道に入り、クサリ止の所で海上の里に向かうコースをとりました。タカノツメ、マルバアオダモ、ウリカエデ、ヌルデ、ヤマハゼなど道端にある落葉樹の枝を片っ端からルーペを使って観察しました。エゴノキとハクウンボクは同じ科で冬芽の形状もよく似ています。

四つ沢を過ぎた辺りにヤマウグイスカグラが早くも花を咲かせていました。ここではほぼ毎年1月に花が見られます。毎年結実しますが、こんな時期に花粉を媒介する虫は何でしょうか。近くにはスズカカンアオイの花も咲いていました。

森の中に入ると、静かなもので鳥の鳴き声もほとんど聞かれません。入ってすぐ、こんな所と思うような場所で、Gさんがジャコウアゲハの蛹を見せてくれました。アオギリ、ハリギリ、クサギ、リョウブ、キリなどの冬芽を見ていると、しっかり時間がかかり、海上の里のサテライトで昼食をとったのは12:30でした。

その後、瀬戸大正池まで行ってクロモジやカナクギノキの冬芽を見ました。池の畔の枝で先月見たコムラサキの幼虫は、この日も寒さに耐えてじっとしていました。

雪もちらつく寒い日だったので、早めに切り上げましたが、日頃、じっくり見る機会がない冬芽をこうして観察してみると意外と新鮮なものだと思えました。

<その他観察できたもの>

冬芽: コバノガマズミ、アオハダ、アマツカ、アカメガシワ、タニウツギ、オオカメノキ、クマヤナギ、サワフタギ、ムラサキシキブ、ケケンボナシ、スノキ、ハナイカダ、ホオノキ、ヤマヒョウタンボク、コシアブラ、ナガバノモミジイチゴ、アオツツラフジ、アカシデ、カラスザンショウ、バッコヤナギ、タラノキ、フジ、ハリエンジュ、ゴンズイ、ナツハゼ、アリマグミ、イソノキ、ナツグミ、バイカツツジ

鳥: ノスリ、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、ウグイス(声)、コゲラ、カワウ、アオジ、ハシブトガラス、ツグ



観察のようす



タラノキの冬芽

ミ、カケス、ハシブトガラス、カシラダカ